

平成29年度 府立加悦谷高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 生徒一人一人の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成</p> <p>2 「地域の学校」として、信託と期待に応える学校づくり</p> <p>3 生徒、自らがつくる「安心・安全」な学校づくり</p>	<p>【成果】</p> <p>1 きめ細かい指導により、就職は100%決定し、進学は4人の国公立大など難関校にも合格者を出すことができた。</p> <p>2 隔週土曜授業を行うことで平日は6限授業とし放課後に自主活動の時間を確保することができた。</p> <p>3 ウェイトリフティング部と書道部が全国大会に出場した。その他の部活動も、野球部のベスト16等、府の大会で上位を狙える位置までレベルアップした。</p> <p>4 京都フロンティア校の取組【地域へく活力・創生・貢献>1000人プロジェクトⅡ】を行うことで、地域を活性化し、地域を支える意識の高揚と地域社会とのつながりの大切さを学んだ。</p> <p>5 学校評価で「本校に入学して良かった」と答えた生徒が79%、「本校に子供を入学させて良かった」と答えた保護者が87%と本校教育へ高い満足度を得ている。</p> <p>6 「地域イベントへの出演」「出前授業」「小中学校への学習支援」「福祉施設ボランティア」などの活動を通して、地域への貢献ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>1 学力向上と一人一人の希望進路実現</p> <p>2 思考力・判断力・表現力など問題を解決に導く力の育成</p> <p>3 規範意識の更なる高揚</p> <p>4 部活動の更なる活性化</p> <p>5 ボランティア活動を含め地域貢献の推進</p> <p>6 キャンパス化を視野に入れた魅力の強化</p>	<p>1 学力向上 一人一人にきめ細かな指導を展開し、基礎学力及びより発展的な確かな学力を身につけさせる。下級生においては偏差値の向上、3年生においては希望進路の実現を果たす。</p> <p>2 学校行事・部活動の充実 土曜授業を行うことでメリハリのある教育を展開し、平日の放課後を有効に活用させる。生徒会活動や部活動など自主活動の一層の充実を図る。</p> <p>3 ボランティア・地域貢献 ボランティア活動を積極的にを行うと共に、「出前授業」「きもの着付け教室」など地域やPTAと連携した取組を充実させ、地域に貢献し信頼される学校を目指す。</p> <p>4 広報の充実・入学希望者の増加 上記のような取組をあらゆる機会を活用して発信し、入学希望者の増加につなげる。</p> <p>5 キャンパス化を視野に魅力的な内容の検討 32年度にスタートするキャンパス化に向け、小規模校の特性を生かした内容、入学する生徒が広い視野をもち大きく成長できる内容、学校と地域がともに発展する内容を検討し、新しいキャンパスの構想を練り上げる。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	学校の特色化	地域創生推進校として、地域の活性化に貢献する事業を展開する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業やアスリートスポーツコースによる小学生への指導、様々なボランティア活動に参加することが出来た。 土曜授業の効果を検証し、来年度はより学力の向上と部活動の活性化を進めるための体制を整える必要がある。 説明会や広報誌の発行、ホームページの更新により、本校の良さを伝えることを行ってきたが、より効果的な方策を図る必要がある。 キャンパス（学舎）化に伴う魅力化の推進に与謝野町との連携を強化し具体化を進めることが出来た。 授業公開や教員研修など研修の機会を持つことが出来た。 週1回の部長会議の設定で職員間の共通理解の充実を図ることが出来た。
		ハイレベルな文武両道を目指し、学力の向上や部活動の活性化を図る。	B		
		ニュースレター・ホームページ・体験セミナーなど様々な機会を通じて本校の魅力を発信し、入学希望者を増加させる。	C		
	キャンパス化を視野に学校の魅力化構想について検討会議を中心に関係機関との連携を密にしなが、その具体化の推進を図る。	B			
指導体制の強化	校内研修を充実させ、新学習指導要領に基づいた授業改善に取り組み、教員の資質能力を向上させる。	B	B		
	部長会議を増やすなどを通して、生徒や学校の状況について、教職員間での共通理解を深め、協働意識を一層強化する。	B	B		
学習指導 ・ 進路指導	学力の向上	1年での探求学習の実施に伴い、生徒の「考える力」の向上に繋がるようにその学習内容の充実を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「文化歴史推進校」の指定と関連づけて1年の探究学習を実施した。より細かな指導計画を検討していく。 家庭学習の習慣を定着させるための取組を全校体制で検討し実施する必要がある。 小規模校の強みを生かした個別の進路検討会の実施などのきめ細やかな指導の充実を図る。
		授業改善を図り、さらに家庭学習を定着させることで、「知識、理解」を向上させる。	C		
	希望進路の実現	補習・模擬面接・個別指導等きめ細かい指導を組織的に行い、就職希望者の100%内定と目標校への合格率を高める。	B		
生徒指導	規範意識の向上	あらゆる機会を通じて、あいさつや身だしなみをはじめマナーの重要性を理解させ、問題行動の未然防止に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導開始時刻を5分早めたことにより、1時間目の始まりに落ち着きが出来た。身だしなみやマナーの指導はその意義を理解させつつ、粘り強く継続的な指導の充実を図る。 校内外のボランティア活動に多くの生徒が参加し、自己有用感を高める取組となった。 部活動加入率は77%と昨年同様であった。WITリフティング部・書道部が全国大会、陸上競技部が近畿大会出場を果たした。
	自主活動の活性化	主権者教育を含め、社会の構成員としての意識を高めるとともに自主性を身につけさせ、生徒会活動やボランティア活動を充実させる。	B	B	
		部活動加入率を昨年以上に高めるとともに、上位の大会に出場する選手を育て、活気のある学校にする。	B	B	
健康・安全	教育環境の整備	日々の清掃活動や定期的な安全点検を通じて、安全で落ち着いた学習できる環境を整備する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃活動や大掃除等で校内美化を図ることが出来た。 日常的な点検を通じて緊急を要する修繕箇所を早期に発見し、修繕を行うことが出来た。 毎月の教育相談会議の定例化やSCの活用で情報の共有を図ることが出来た。
	教育相談体制の充実	教育相談会議の定例化を図り、分掌間の連携を密にし、また、関係機関や保護者との連携も図りながら、広い意味で支援を要する生徒に対し迅速できめ細かな手立てを行う。	B	B	

A:充分達成できている。 B:ほぼ達成できている。 C:達成できているとはいえない。 D:ほとんど達成できていない。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関大学を目指さなくても、社会に出てから重要となる基礎学力の向上を保護者と連携してしっかりと行うことで、志願者も増えると思うので、更なる努力をお願いしたい。 ・ 希望進路にむけての指導を親身になって行っていただきたいが、本人の努力が一番大切であることも指導して欲しい。 ・ 挨拶やマナーなどの指導をしっかりとされてきているが、それに加えて良い行いをした生徒を褒める指導も重要であるのでお願いしたい。 ・ きめ細やかな広報を通して、学校の様子が一定町民に知らされて、見えやすくなっている。引き続き地域に開かれた、地域とのつながりを大切にしたこのような取組を引き続き、更なる工夫もしながら継続してほしい。 ・ 生徒等の思いを聞ける場（時間）を大切にして、学校行事を作り上げていってほしい。
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善 の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都フロンティア校事業及び文化歴史推進校事業を来年度は更に綿密な計画のもとに実施をし、地域との連携強化や探究的な学習活動の深化を図る必要がある。 ・ 教職員間の連携を密にするために、部長会議の週1回の定例化などを通じて、情報の共有化を積極的に進めていくことが求められる。 ・ 生徒の学力の向上を図るために、家庭学習の定着を目指した方策を早急に検討し、学校として組織的に進めることが必要である。 ・ 小規模校の利点を生かした個々の生徒を大切にしたきめ細やかな指導を学校での様々な場面で展開していく。 ・ 土曜授業廃止後の部活動の活性化と学力の向上のための新しいシステムの構築を進める。
--------------------------------	---